

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	れもんキッズ藍住		
○保護者評価実施期間	令和 7年 11月 21日		～ 令和 7年 12月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	75 (回答者数)	61
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 20日		～ 令和 8年 3月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20 (回答者数)	20
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ミーティングを中心に、利用児の様子や支援について情報共有し、必要に応じて話し合うことができている。	毎日のミーティングやクラスミーティング、それぞれのクラスの代表が参加する担当者ミーティングを実施し、利用児の状態や活動内容等について密に検討している。	引き続き、利用児について情報共有できる機会を設ける。また、職員の専門性をより向上させることができるような研修内容や、外部講師の導入等検討していく。
2	利用児が通所を楽しみにしている。支援計画等保護者への説明が適宜できている。	利用児が安心して楽しく過ごせるよう、活動内容や関わり方等を工夫している。また、保護者からのニーズと利用児のニーズや状況を鑑みながら支援計画を作成し、説明を行なうことで支援への相互理解が図れるよう努めている。	利用児が取り組めたことや頑張ったこと、楽しまれている様子等を保護者や関係する機関(園等)と共有し、利用児中心の前向きな関わりや環境作りに繋がるよう努める。
3	職員の研修や事業所見学に参加する機会の充実。	毎月第3土曜日の午後に職員研修の時間を設け、療育アドバイザー(大学教授)に協力いただきながら、ケース検討等を行っている。 また、外部の研修や事業所見学については、内容によって希望者を募ったり、必要と思われる職員に参加を促すことで、積極的に機会を設けることができた。	引き続き、事業所内外の研修参加や事業所見学等の機会を設け、知識を学んだり刺激を受けたりすることで、支援の質の向上や必要とされる事業所づくりに努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境面の劣化。	事業所開始から10年を超え、建物としては更に前より使用されていたこともあり、さまざまな箇所の修繕が必要となってきている。これまでも必要に応じた改修は行ってきたが、使い方や年月を経て、修理が必要な箇所が増えてきている。	備品や部屋等の取扱いを丁寧に行えるよう利用児や職員で意識して取り組む。 修理が必要な箇所は、全体で共有し、対応を進めていく。
2	事業所内の情報共有と専門性向上。	設問によって「行っていると思う・分からない」「言葉の意味が分からない」等の回答が見られた。事業所の取り組みについては、周知・共有不足から生じていると考えられる為、それぞれからアクションを起こせるよう意識付けが必要。また、個々での自己研鑽も必要であると感じた。	利用児への支援は熱心に取り組んでいる。できていることを認め合いつつ、苦手な分野(用語・制度等)への学びも進めていけるよう事業所全体で取り組む。また、職員間でその時々的事柄について情報共有や検討ができるよう、一人一人が「みんなの・自分たちの事業所」としての意識を高める。
3	職員数の確保。	配置上は満たしているが、利用児の状況や活動内容、職員の出勤状況によって更に職員数が必要になる時(時間によって)がある。	活動内容や部屋ごとの職員の動きについては、ミーティング等を通じて必要に応じて見直しを行い、安全面に配慮した対応を行う。 求人活動は引き続き行い、職員数の充実を図ると共に、育成への取り組みを強化することで「即戦力」として対応できる人員を増やす。